

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

10.総合研究大学院大学

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5058

国立民族学博物館には、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度の研究活動に密着した教育・研究を行っている。民博に基盤をおく2専攻は、長期のフィールドワークで得られた資料に基づき博士論文を作成することを目的とし、個別の教員による授業や研究指導と、複数の教員の指導のもとに行われる共通のゼミナールを通して、広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしている。

本年度の文化科学研究科長は、地域文化学専攻の塚田誠之がその任にあたり、地域文化学専攻長は久保正敏、比較文化学専攻長は鈴木七美が務めた。

●葉山キャンパス・文化科学研究科の動き

2012年度は、総研大も国立大学法人化9年目を迎えた。

文化科学研究科においてはかねてより連携強化が図られてきたが、2005年度から2006年度にかけて文部科学省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」事業として専攻を横断して実施された「総合日本文化研究実践教育プログラム」を引き継いで、以降は「文化科学研究科連携事業」が実施され、民博に基盤をおく2専攻もこれに参加した。今年度のこの教育プログラムにおいては、リサーチ・トレーニング事業に7名の学生が参加して、それぞれ学会発表や現地調査等を行った。

第54回教授会（2012年9月21日）において地域文化学専攻および比較文化学専攻から2名の課程博士と比較文化学専攻から1名の論文博士、第55回教授会（2013年2月22日）において地域文化学専攻から1名の論文博士の学位授与が承認された。

●教員の異動

2012年4月1日付で、樫永真佐夫准教授、信田敏宏准教授および山中由里子准教授が地域文化学専攻担当教員に、飯田 卓准教授、陳 天璽准教授、日高真吾准教授および廣瀬浩二郎准教授が比較文化学専攻担当教員になった。

白川千尋准教授および陳 天璽准教授は民博の退職に伴って総研大の併任解除となった。

●学位の授与

地域文化学・比較文化学両専攻においては2012年度に、課程博士2名、論文博士2名が誕生した。以下に、学位取得者（所属専攻）『論文題目』[学位の種類] [審査委員]（最初に記された委員が主査、所属の記されていない者は、地域文化学専攻あるいは比較文化学専攻の所属）[予備審査委員]の順に記す。

【課程博士】

宮脇千絵（地域）『変化しつづける装い——中国雲南省文山モンの自己と他者をめぐる人類学的服飾研究』[文学]

[審査委員] 野林厚志、塚田誠之、横山廣子、中谷文美（岡山大学教授）、杉本星子（京都文教大学教授）

[予備審査委員] 横山廣子、小長谷有紀、塚田誠之

八木百合子（比較）『現代アンデス農村における聖人信仰の変容——人の移動に焦点をあてて』[文学]

[審査委員] 杉本良男、關 雄二、齋藤 晃、木村秀雄（東京大学教授）、加藤隆浩（南山大学教授）

[予備審査委員] 杉本良男、齋藤 晃、新免光比呂

【論文博士】

山本 陸（比較）『先史アンデス形成期の社会動態——ペルー北部ワンカバンバ川流域社会における社会成員の活動と戦略から』[文学]

[審査委員] 印東道子、關 雄二、野林厚志、井口欣也（埼玉大学教授）、大平秀一（東海大学教授）

[予備審査委員] 印東道子、竹沢尚一郎、野林厚志

川村千鶴子（地域）『多文化都市・新宿の生成と展開——ライフサイクルの視座』[学術]

[審査委員] 庄司博史、南 真木人、陳 天璽、町村敬志（一橋大学教授）、竹沢泰子（京都大学教授）、中牧弘允（国立民族学博物館名誉教授）

[予備審査委員] 中牧弘允、寺田吉孝、南 真木人

なお、これまでに学位論文を単行本として、『研究年報2011』掲載以降に刊行したものは、以下のとおりである。

マリア・ヨトヴァ（2011年〔平成23年〕9月課程博士）

2012 『ヨーグルトとブルガリア——生成された言説とその展開』 東方出版

友永雄吾（2011年〔平成23年〕3月課程博士）

2013 『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』 明石書店

●学生の就職状況

学生の受入を開始した1989年以来、2013年3月末日までに地域文化学専攻・比較文化学専攻を巣立った115名の修了生および退学生のうち、合計53名が常勤の教育研究職に就いた。内訳は、国立大学13名、公立大学5名、私立大学28名、海外等その他の機関6名、民博1名である。

●入学者選抜試験

2013年度入学者の選抜試験には、地域文化学専攻2名、比較文化学専攻6名、計8名の志願者があり、地域文化学専攻2名、比較文化学専攻2名、計4名の合格者を第55回教授会において決定し、4名が入学手続きをとった。入学定員（各専攻3名）に対する出願者の倍率は累計平均よりやや低めの1.8倍であった。合格者、「志望研究題目」、（主任指導教員、副指導教員）は以下の通りである。

【地域文化学専攻】

劉 征宇

「中国の食文化の歴史人類学的研究——制度と礼俗を中心として」（朝倉敏夫、韓 敏）

喬旦加布

「中国青海省同仁県におけるチベット文化とその民族誌的研究——同仁県ワッコル村の事例から」（横山廣子、信田敏宏）

【比較文化学専攻】

田村卓也

「ケニア沿岸州ワシニ島における資源獲得と利用のための知恵——海との関わりを通して」（飯田 卓、池谷和信）

邱 君妮

「日本と台湾における歴史的空間・建築物の保存・活用に関する博物館学的研究」（吉田憲司、野林厚志）

2013年度入学者も、ここ数年と同様、研究対象である現地での経験を持つ者が多い。出身大学院の内訳は、国立2名、海外2名で出身大学院の地方別では、北海道、九州地方となっている。

2013年3月現在、地域文化学専攻と比較文化学専攻それぞれに12名と14名、あわせて26名が在籍しているが、このうち3年次以上には両専攻あわせて20名がいる。これは、教育研究の柱としてある長期のフィールドワークにそれぞれの学生が出かけているためである。

2000年度から年1回、13回目の実施となる「オープンキャンパス」（大学院説明会）は、10月14日にセミナー室や大学院院生室等で開催され、総研大および民博の概要説明、施設見学、現役院生・修了生・教員との懇談等が行われた。本年度の参加者は9名で、内訳としては近畿、関東その他地域の大学院生など出身は多岐にわたった。

●日本学術振興会特別研究員（DC2）への採用

2012年度は地域文化学専攻の金セツピョルが日本学術振興会の特別研究員（DC2）に採用された。また、2012年に申請した2013年度特別研究員採用者として地域文化学専攻の東城義則、比較文化学専攻の吉村健司の計2名が内定を獲得した。

●地域文化学専攻・比較文化学専攻教員数（2013年3月現在）

専攻	専攻長	担当教員数
地域文化学専攻	1	26(基盤機関の長である国立民族学博物館館長を含む)
比較文化学専攻	1	23

●地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生（2013年3月現在）

専攻	入学定員	現員			計
		1年次	2年次	3年次	
地域文化学専攻	3	2	1	9	12
比較文化学専攻	3	1	2	11	14
計	6	3	3	20	26

●年度別学位記授与者数

	地域文化学専攻		比較文化学専攻		計
	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
1991年度(平成3年度)			1		1
1992年度(平成4年度)					0
1993年度(平成5年度)			1	1	2
1994年度(平成6年度)	2		1		3
1995年度(平成7年度)	2		1		3
1996年度(平成8年度)		3			3
1997年度(平成9年度)	3		4		7
1998年度(平成10年度)	4	2			6
1999年度(平成11年度)					0
2000年度(平成12年度)	2		2	1	5
2001年度(平成13年度)	1	1	2	1	5
2002年度(平成14年度)	1	1		2	4
2003年度(平成15年度)					0
2004年度(平成16年度)	2	3			5
2005年度(平成17年度)	4	2		2	8
2006年度(平成18年度)	2		3		5
2007年度(平成19年度)	2	1	3		6
2008年度(平成20年度)	1		1		2
2009年度(平成21年度)		1	1	1	3
2010年度(平成22年度)	2		2	3	7
2011年度(平成23年度)	3		1	1	5
2012年度(平成24年度)	1	1	1	1	4
計	32	15	24	13	84

